

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
380	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
The persistent influence of social networks and alcoholics anonymous on abstinence. 禁酒への社会的ネットワークとアルコール中毒者更生会 (断酒会) の継続的な影響について	
執筆者	
Bond J, Kaskutas LA, Weisner C.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Stud Alcohol. 2003 Jul;64(4):579-88.	
キーワード	
断酒会、社会的ネットワーク、禁酒、	
要 旨	
<p>目的: アルコール依存症の治療後の禁酒に関してアルコール中毒者更生会 (断酒会、AA) や社会的ネットワークの関わりが果たしている役割について明らかにすること。</p> <p>方法: 北部カリフォルニアで実施されている 10 の代表的な公的及び民間のアルコール依存症治療プログラムを対象に研究を行った。治療を求めている 367 人の男性と 288 人の女性を対象として開始時に面接を行い、アルコール消費量や依存症状、アルコール摂取量を減らすための社会的サポートの状況、多量飲酒者の人数についての情報を得るために 1 年後及び 3 年後に再度、面接を行った。</p> <p>結果: 1 年後及び 3 年後の追跡面接における禁酒の予測因子として重要なものとしては前年度の断酒会への参加状況、社会的ネットワークにおける多量及び問題飲酒者の割合、アルコール減量の働きかけの程度や節酒のための断酒会の支援状況といったものがあつた。治療開始後 12 ヶ月から 36 ヶ月後にかけての断酒会に参加する人の割合が増加すると、36 ヶ月後の禁酒者の割合は 12 ヶ月後の禁酒者の割合に比べて 35%ほど増加した。</p> <p>結論: 断酒会との関係及び禁酒会のメンバーから受けているサポートの種類が治療開始 3 年後の禁酒状況に大きく関わっていた。支援ネットワークの継続的な支援が禁酒維持には重要であつた。</p>	